



「地域教育」「まちなか振興」「地域観光」

これまでの取り組みや事業成果を報告

11月21日(火)、第7回「COC地域活動報告会」と第2回「COC地域シンポジウム」を開催し、どちらも多くの皆さんにご参集いただきました。

第7回「COC地域活動報告会」

14時30分から、本学を会場として行われた、地域活動報告会では、地域の教育、企業、市議会、行政等の方々をはじめ、80名が参加されました。

地域活動報告会はCOC事業をはじめ、学生たちの日頃の地域活動の内容やそのなかでの学びについて地域の皆さんに報告し、アドバイスや励ましをいただくことを趣旨としたものです。



各支援室からの報告

地域教育支援室から、しげやひさし 澁谷久

教授と学生2名から「数学を学ぶ楽しさと教える楽しさがあるマスマスフェアの取り組み」について、豊富中学校で実践した様子や、実際にマスマスフェアで生徒へ教えている学生と授業を受けている生徒のそれぞれのアンケート結果を発表しました。

まちなか振興支援室は、学生8名から「平成29年度まちなか調査実習中間報告」稚内中央商店街アクションリサーチ/稚内市子どもの貧困問題関連調査」について報告があり、稚内中央商店街の情報発信などをするため商店街マップ作りについての取り組み等を紹介しました。

地域観光支援室は、

ビスヌ・プラサド・ゴー

活動報告会アンケート

■報告会に来て

大変よかった	よかった	ふつう	あまりよくなかった	よくなかった
13	22	8	1	0

■主な感想

楽しく数学を学ぶという点において、十分に興味をひくような実践だと感じた(30代)。子どもの学びとともに学生の学びを聞くことができよかった(20代)。現在の稚内のまちなかの現状を知るいい機会になった(20代)。実際にまちなかに出るの調査は大事だと思った。課題は共有されていると思う(60代)。利便性を求める社会風潮の中で「ものづくり」のIoT化は、より日本的で興味深かった(60代)。学生を含め、教職員が何を研究しているのか知ることができた(20代)。大学と地域の活動が分かって良かった(20代)。地方大学の在り方として、大学の知恵をいただくことがこの宗谷の地に必要なことと感じた(60代)。具体性があるとなお良かった(20代)。

タム教授から「情報技術を用いた観光や文化の可能性と発展」について、IT技術を利用して、VR(仮想現実)で稚内にいながらリアルタイムでネパール観光ができるような仕組みを開発していきたい、などと発表しました。

2件のポスター発表

・宗谷地域研究所のプロジェクト・運動部学生による地域のスポーツ文化構築に向けた取り組みとその可能性
・稚内北星学園大学カリーニング部の歩みを事例に

第2回

「COC地域シンポジウム」

18時30分からは、稚内市総合文化センター小ホールに会場を移し、第2回COC地域シンポジウムを開催しました。今回は稚内市および稚内市教育委員会との共催による「第3回稚内市子どもの貧困対策講演・シンポジウム」としての開催となりました。

市内4地区のプロジェクトチームによる提言

1つ目のプログラムは「潮見地区」「北地区」「東地区」「南地区」の4地区から各地区の子どもの貧困対策の取り組みなどが発表されました。

本学も含まれる潮見地区の発表では、学生たちが子どもの貧困問題をアピールするポスター・動画制作を担当しており、一人ひとり名前をあげて紹介されました。

北地区は「子育てのまちなか」の様々な子育て支援制度についてをパンフレットにまとめ、地元出身者が本学に進学する際、各支援制度を活用することで、家庭に大きな負担をかけず進学することができる、などを紹介しました。

東地区は子育てに重点をおき、「子育てファイル」をツールとして、孤立した子育てをさせない取り組みについて、保護者が考え合うモニター茶話会の様子を動画で報告しました。

南地区では、幼稚園、小学校、



中学校、高校、行政、医療、福祉が連携した「子育てネットワーク」の取り組みと、小学生の段階から行っているキャリア教育についての報告がありました。

講演

「調査結果に見る子どもの貧困」

2つ目のプログラムはまつとしいち松本伊智朗氏(北海道大学大学院教授)の講演「調査結果に見る子どもの貧困」です。

昨年度、北海道と北海道大学が実施した「子どもの生活実態調査」の結果をふまえ、先に報告された4地区の取り組みの意義を明確にしてくださいました。

「子育て運動」をベースとする稚内市の子どもの貧困対策は、全国的に見ても特有な取り組みになりつつあります。

200名以上が参加した今回のシンポジウムは、そのことを市民全体で共有する有意義な機会となりました。